

9,300名以上の中小企業診断士を
輩出した実績と60年以上の伝統。



中小企業支援のエキスパートを養成

中小企業診断士養成課程

独立行政法人中小企業基盤整備機構
関東本部 中小企業大学校 東京校

「地域・社会の発展のために 責任感を持って取り組みたい」

この志を持つ中小企業診断士の養成が私たちの使命です。

中小企業診断士には、個々の中小企業の支援にとどまらず、地域・社会の発展に貢献するという大きな役割が求められます。

このような社会的な役割を明確に認識した上で、しっかりと信念を持ち、厳しい経営環境に直面する中小企業の支援を担う人材を養成することが私たちの使命です。

「資格があると就職・転職、社内の昇進に有利」、「派遣機関からの業務命令なので」、「受講さえすれば資格がもらえそう」といった理由で当養成課程を受講されても、高い研修成果は得られません。

当校は中小企業とその支援者を育成する両輪の役割を担っており、そのコンセプトに基づいて、明確な貢献意欲、目的意識を持って活躍したいと思われる方を応援いたします。



中小企業大学校の中小企業診断士養成課程

当校の「中小企業診断士養成課程」は、経済産業大臣が指定する者（（一社）中小企業診断協会）が実施する中小企業診断士第1次試験に合格した方を対象に、事例に基づく演習・企業診断実習を通じて実務能力の高い中小企業診断士を養成する6か月のプログラムです。「第2次試験の合格」及び「実務補習」に代わるものとして当

養成課程を修了すると、修了後は、中小企業庁へ申請することにより経済産業大臣が登録する中小企業診断士になることができます。

*修了にあたっては、実務能力の修得について一定の基準に基づき審査をいたします。

中小企業の真の伴走者を育成する実践型プログラム

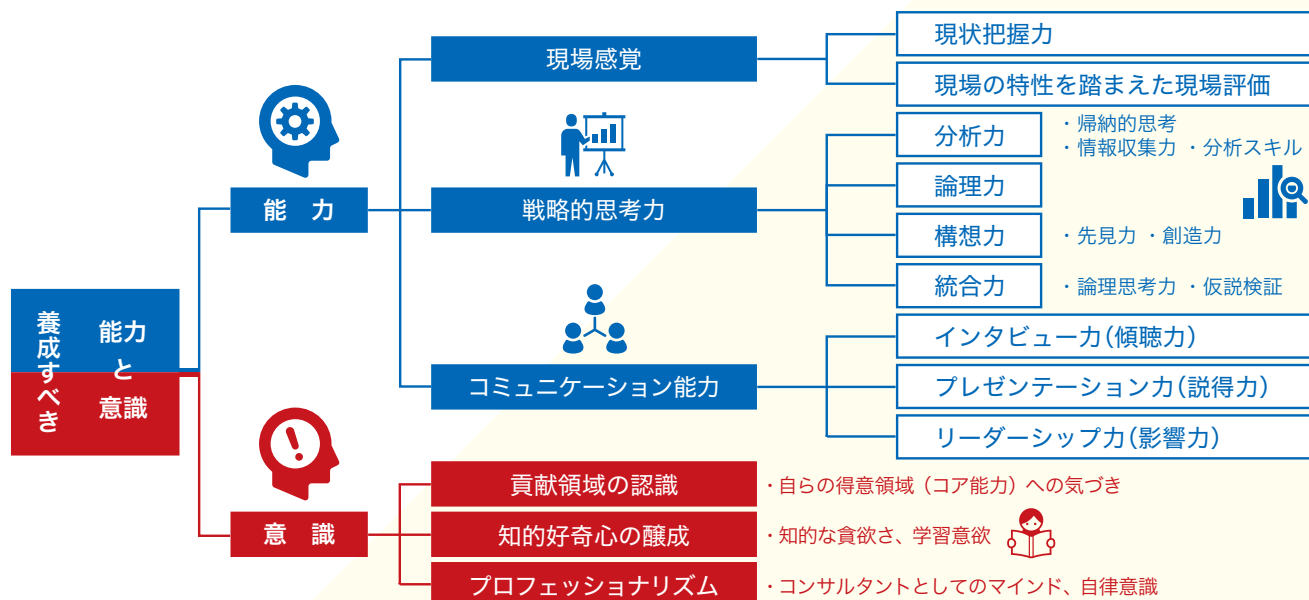
企業診断実習において、知識・スキルの習得を基盤に、①チーム学習と②経験学習を重ねます。対話や議論を通じて、他者と意見をぶつけ合いながら相互理解を深め、チームとしての成果を最大化していきます。さらに、企業とのコミュニケーションや自己内省を通じて、中小企業に寄り添い信頼される伴走者としての成長を目指します。

①チーム学習

チームでの対話や議論を通じて、一人ひとりが自身の価値観や思い込みに気づきます。さらに、他者との違いを理解し、協働のプロセスと重ねることで、課題の全体像をとらえ、最終的な提案内容をまとめていきます。

②経験学習

仮説の立案と検証を繰り返し、「なぜ仮説が適合したのか」「なぜ適合しなかったのか」を振り返ることで、自己分析を深めていきます。また、このプロセスを通じて自身の経験を継続的に内省します。さらに、チーム学習における自身の考え方やコミュニケーションスタイルを振り返ることで、中小企業から信頼される支援者としての本質的な姿勢や思考を、体験的に身につけます。



中小企業診断士養成課程の流れ

カリキュラムは大きく経営診断Ⅰと経営診断Ⅱから構成されます。経営診断Ⅰでは、企業の個別経営課題に対する診断・助言能力を、経営診断Ⅱでは全社的視点に立った経営課題に対する診断・助言の実務能力を修得します。

中小企業診断士養成課程の流れ（修得レベルアップイメージ）

経営診断Ⅰ（期間中前期）



コンサルティングスキル 経営戦略 各機能別戦略

論理的な思考法を学び、
客観的な分析の基礎を修得します。

演習（合計246時間以上）



流通業経営診断実習 製造業経営診断実習

〈流通業経営診断実習〉
事例をもとに演習を重ね、最初の実習で
実際の現場を経験します。
〈製造業経営診断実習〉
さらに一通りの診断実務を経験して、
より実効性の高い提案力を修得します。

実習（合計120時間以上）



総合経営 創業・ベンチャービジネス モデル支援 企業再生 企業連携 経営革新 など

演習（合計84時間以上）

経営診断Ⅱ（期間中後期）



経営戦略策定実習Ⅰ 経営戦略策定実習Ⅱ 経営総合ソリューション実習

〈経営戦略策定実習Ⅰ〉
戦略の基礎を徹底して学び、実践的な手法を活用します。
〈経営戦略策定実習Ⅱ〉
経営戦略の実行に向けた中長期経営計画を策定します。
〈経営総合ソリューション実習〉
専門性の高い「使える」レベルの提案力を身に付けます。

実習（合計192時間以上）



中小企業診断士
登録資格取得

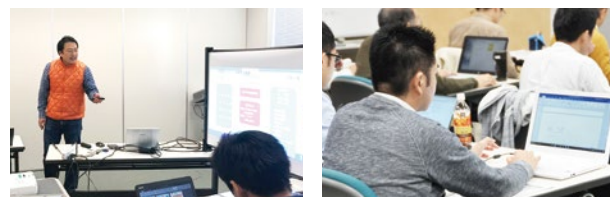
プログラムと養成課程の特長



演習と実習によるプログラム構成

330時間以上行われる演習では、実際の中小企業の支援ケースを基に、チーム学習による徹底分析と討議を経て、具体的な支援につながる思考力を養います。

また、企業における診断実習は、6～8名編成の実習班に分かれて5回実施します。実際の中小企業の経営現場を対象に徹底した現地調査や経営者ヒアリングから、問題点の把握、課題の抽出、解決策の立案、報告書の作成までプロの中小企業診断士と同じ手順で、パソコンを駆使しながら分析力、問題形成力、論理的思考力、報告書作成力、プレゼンテーション力などを鍛えていきます。



長年のノウハウを活かした教材

豊富な中小企業の支援ケースを題材とした実践的な演習教材や、コンサルタントとしての業務範囲を網羅したオリジナルテキストなど、国の中小企業施策実施機関としての長い歴史の中で蓄積された情報やノウハウを活かした教材を使用します。



現場感覚を磨く

現場の最前線で活躍している中小企業診断士をはじめ、中小企業支援を熟知した実務家による演習・実習指導で、現場の生きた知識や経験が修得できます。

実際の中小企業への診断実習を通じて、プロの中小企業診断士と同じ手順を経験し、現場感覚に根ざした実践ノウハウが学べます。



チーム学習と経験学習を通して、 中小企業に真に信頼される支援者に成長する

中小企業支援者は、常に人や組織に寄り添って支援をします。チーム学習においては、出身や年齢など多様な受講者、つまり自分が思い通りにならない存在とチームになり、協調しながら実習などを進めることで学びを得ます。チーム活動では、メンバーとの考え方の違いや、そこから生じる様々な感情に直面します。組織の問題解決の難しさを自らの課題として捉え、振り返ることでより深い学びにつなげます。



各界で活躍する数多くの修了生

1962年度の養成課程の開始以来、約9,300名以上の修了生を輩出し、日本各地で中小企業の経営支援を行っています。全国から受講生が集まる本校での学びを通じて得られる業界ネットワークは、卒業後の大きなメリットとなっています。



修了生の声

中小企業大学校の魅力

松野 泉氏（新課程第27期）



私が複数ある診断士養成課程の中から中小企業大学校東京校を選んだ基準は3つありました。①短期間で資格取得可能なこと、②修了後に独立診断士として働ける知識とスキルが取得できること、③支援機関とのネットワークができることです。

また養成課程を修了し、独立開業後にわかったことですが、2次試験を経た診断士と、養成課程を経た診断士では、独立開業後の立ち上がりには差があることが多いです。つまり養成課程出身の診断士の方が、スタートダッシュしやすいのです。これは、内容の濃い実習を5回実施していること、カリキュラムが学問分野に偏ることなく、実践的な内容が多いことが大きな理由だと推測します。

結果として、中小企業大学校東京校を選び、入学して良かったと思っています。中でも支援機関、金融機関、個人（独立開業を目指す方）など全国から参加した様々な同期の受講者と年齢や立場を超えて切磋琢磨できたことは、私の宝物です。さらに修了後はOB・OGとの繋がりも大きな助けとなっています。

事業者様への支援は難題が多く、知識補充とスキル修得は今後も続きます。それでも頑張っていこうと思えるのは、まだ見ぬ事業者様を思って、養成課程で妥協をせずに学んだ日々があったからだと思っています。

充実した施設と環境で 有意義に集中して学べる

緑豊かな環境に、Wi-fi 完備の研修施設、
食堂、読書室、自習室、大浴場など
充実した設備を備えています。
最大6か月の入寮も可能です（希望者のみ）。

食堂



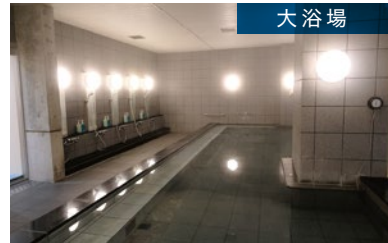
読書室



自習室



大浴場



中小企業診断士養成課程の実施内容

中小企業の経営の診断に関する知識、手法を習得し、適切な経営支援を提供できる中小企業診断士を養成することを目的とします。

開催期間	秋期（9月末開講）・春期（3月末開講）の計2回 概ね6か月間を予定	実施概要	①時間：午前9時40分から午後4時40分まで（演習） 午前9時40分から午後5時40分まで（実習） ②休日：土曜日、日曜日、祝日および当機構で定める休日 （一部の休日は正規の研修時間に充てられます） ③修得審査：当機構が定める修得水準の基準により審査を行います。 ④修了要件：次の各項のすべてに該当した場合、修了となり、修了者には修了証書を交付します。 （a）前記③の評価の結果、必要な水準に達したと認められた者 （b）出席率が90%以上、かつ受講態度が良好だった者
実施場所	独立行政法人 中小企業基盤整備機構 関東本部 中小企業大学校 東京校 〒207-8515 東京都東大和市桜が丘2-137-5		
定員	40名～80名程度（募集時期による）		
選考方法	① 書面審査により面接対象者を決定 ② 面接審査により受講者を決定	養成課程の修了	出席日数等の一定要件を満たし、実務能力の修得審査に合格した修了者に「中小企業診断士」の登録資格が与えられます。※当校では、修了後にコンサルタント等として独立される方への業務等の紹介・斡旋は行っておりません。

使用するパソコン及びパソコンスキル

養成課程で使用するパソコンの仕様

当養成課程の演習及び実習では、Officeソフト（Word、Excel、PowerPoint、Teams）を利用します。特に実習では実習先の企業情報を取り扱うため当校が指定する仕様のノート型パソコンをご用意ください。（詳細は募集要項をご覧ください）

受講にあたり基本的なパソコンスキルは必須条件

当養成課程ではグループ形式でメンバーが役割分担・連携し、各自持参したパソコンを活用して実習作業等を行います。Excelで集計・分析し、図表などを作成したり、Wordで分析結果や解決策などを報告書にまとめます。またPowerPointを使ってわかりやすい説明資料の作成などをします。それらの資料はTeams内に保存し、グループ内で共有します。
特別にレベルの高い専門的なスキルはなくても、上記のようなパソコンの基本操作のスキルは、受講にあたり必須となります。

入寮のご案内

場所	〒207-0022 東京都東和市桜が丘2-137-5「東大和寮B棟」 電話：042-564-1011 FAX：042-564-1010
設備	個室（全室禁煙、シャワー・トイレ付き） 共同施設（フロント、自習室、談話室、ビジネスコーナー、大小浴場など）
費用（税込）等	①東大和寮 寮費（令和8年10月～） ・1泊 3,600円（税込）※食堂休業日については朝食はありません。 ・面接審査時は、空室がある場合、4,100円（税込）でご利用いただけます。 ・予約当日の22:00までに連絡なしの不泊は、キャンセル料（1泊分）が発生しますのでご了承ください。 ②校内食堂 昼食・夕食の2食で1,200円程度（夕食は予約制） ③駐車場・駐輪場の設備はありません。 自家用車及びオートバイ等の利用による入寮は禁止します。

※食堂・寮宿泊費は変更となる場合がございます。詳細はホームページでご確認ください。
※東大和寮は年末年始、下記の通り休業いたします。
休校日：12月29日～1月3日（学校の都合により変更になる場合がございます。）



東大和寮のフロント



部屋には机と椅子もあります

中小企業診断士養成課程の歴史

当養成課程は、昭和37年（1962年）10月財団法人日本中小企業指導センター（現・中小機構）で、当時としては唯一の中小企業診断員養成課程（1年間）として開講しました。その後、平成18年（2006年）4月に現行の「中小企業診断士養成課程」（6か月）を開講いたしました。

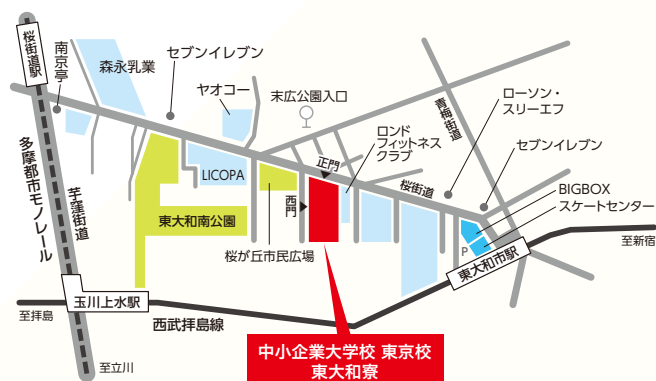
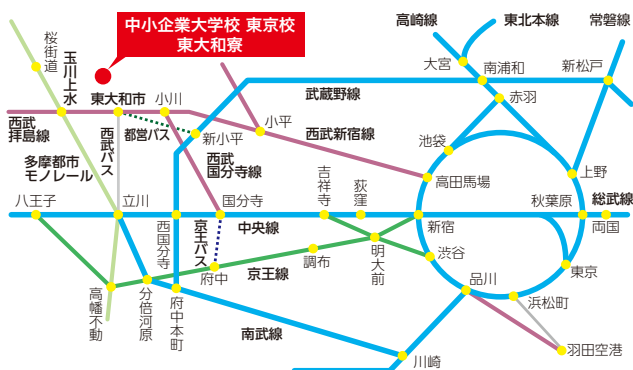
60年以上にわたる歴史のなかで培ってきたノウハウを、実践的な講義に活かしています。修了生は、約9,300名にのぼり、各業界で活躍されています。



全国から集まる同期は一生の宝物です

当校へのアクセス

- 西武拝島線 東和市駅から徒歩 10 分
 - 多摩都市モノレール 桜街道駅から徒歩 15 分
 - 受講者用の駐車場・駐輪場はございません。
- 電車・バス等の公共交通機関をご利用ください。



Be a Great Small.
中小機構

中小企業の価値を、
日本の原動力に。

独立行政法人中小企業基盤整備機構
関東本部 中小企業大学校 東京校

URL：https://www.smrj.go.jp/institute/tokyo/
〒207-8515 東京都東和市桜が丘 2-137-5
電話：042-565-1273
E-mail：to-shindan@smrj.go.jp

最新情報、研修の様子、
動画などもこちらより
ご覧になれます。

